作文部門「わたしのカブトムシ」若松侑莉亜・女・9才

1 だいもくは、一ぎょうめに、学年・学校・組・名まえは二ぎょうめに書き、文しょうは三ぎょうめの二ばんめのマスから書きましょう。
2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくごとにぎょうをかえましょう。
3 詩や文は、どのぎょうも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましょう。

（7月28日木曜日）

わたしのカブトムシ

さつま町立佐志小学校三年　若松侑莉亜

「ばあちゃん、このはこあけてもいいの。」

ばあちゃんちの畑の近くにダンボールのはこがおいてありました。大きさは中くらい、この前来た時にはありませんでした。

「いいよ。ゆりあにと」「ておいたんだよ。」

ばあちゃんはうれしそうです。開けてみると、中にはたくさんのかれ葉が入っていました。よく見るとごそごそ動いているところもありました。「もしかして」そう思って動かいたところをほじくると、かっこいいつるりと光ったあごがありました。ヒラタクワガタです。そっとせなかをさわってみると、

「あっ」。

羽がバッとひらいたクワガタは遠くにとんでいってしまいました。せっかくもらったクワガタなのに。かなしくなってていつまでも泣いていました。ばあちゃんは、

「またとんできたらとっとくから。」

4 、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましょう。
5 おはなししたところは、「　」の中に入れてぎょうをかえて、おはなしだけを書きましょう。

（不許複製）

鹿児島県小学校教育研究会国語部会選定

No. 2

1 だいもくは、一ぎょうめに、学年・学校・組・名まえは二ぎょうめに書き、文しょうは三ぎょうめの二ばんめのマスから書きましょう。
2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくごとにぎょうをかえましょう。
3 詩や文は、どのぎょうも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましょう。

（　月　日　曜日）

となぐさめてくれました。

一週間たってばあちゃんちに行ってみると今どはあなが開いたダンボールがおいてあります。「ぜったいてっぱうだ」わたしは、ばあちゃんにもきかず、走ってはこに近づいて開けてみました。かれ葉の上には空になったぜりがニつおいてありました。

「やっぱりカブトムシだ。」

はこの中にはオスがニひきメスがニひき入っていました。にげないようにそおっと持ってみると、わたしの手をひっかいてきました。どのカブトムシも元気です。オスも持ってみました。オスは短い方のツノを持つのでひかれません。持ち上げてみるとツノが太陽に当たってきらりと光りました。

「持って帰っていいよ」。

ばあちゃんに言われて持って帰りました。二年生の時につかまえたカブトムシと合わせてこれでわたしの家のカブトムシは五ひきになりました。

4 、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましょう。
5 おはなししたところは、「　」の中に入れてぎょうをかえて、おはなしだけを書きましょう。

（不許複製）

鹿児島県小学校教育研究会国語部会選定

20×20

1 だいもくは、一ぎょうめに、学年・学校・組・名まえは二ぎょうめに書き、文しょうは三ぎょうめの二ばんめのマスから書きましょう。
2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくごとにぎょうをかえましょう。
3 詩や文は、どのぎょうも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましょう。

（　月　日　曜日）

でも、それだけでは
家にはもう一つ小さな
まだたまごのカブトムシがいます。
ていたカブトムシです。もともとかっ
てたまごをうみました。たまごがうかわいい
ようちゅうがうまれてわたしはうれしくてい
そいで動画をとりました。
ざんねんなことにお母さんのメスはたまご
がうまれてすぐに死んでしまいました。
「もといたところにうめてあげよう」。

お父さんといっしょにうめてあげました。
今まで生きてくれてありがとう」。
心の中でさよならを言ってうめました。
お母さんカブトムシの分はきっとこのよう
虫が大きくそだって生きてくれると思います。
私は、五ひきのカブトムシと一ぴきのよう虫
がしあわせに生きられるようにお世話をがん
ばろうと思いました。
「よう虫さん、お母さんの分もがんばって
生きてね。わたしもお世話がんばるからね」。

4 、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましょう。
5 おはなししたところは、「　」の中に入れてぎょうをかえて、おはなしだけを書きましょう。

（不許複製）

鹿児島県小学校教育研究会国語部会選定